

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502777		
法人名	社会医療法人共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川下		
所在地	札幌市白石区川下574-61		
自己評価作成日	平成 27 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成27年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=t_rue&JigyosyoCd=0170502777-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 10 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境と地域住民との交流のもと、入居者様とご家族様がここに来て良かったと思っただけのよう、心の通う、そして自分が入りたいと思うグループホームになるよう心がけてお世話をさせて頂いております。敷地内には病院や重度認知症デイケア、介護老人保健施設があり、入居者様・ご家族が安心して日々の生活を送れるよう連携を図っています。また、大きな中庭や近くには川下公園もあり、自然豊かな環境の中で、入居者様の心と身体の健康増進を進めています。そのような環境の中で、ユニット間で積極的に交流を持ち、グループホーム全体が楽しく笑いが溢れ、満足感のある日々を送れるように入居者様ひとり一人に心のこもったサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【介護・福祉・医療の充実】
札幌市郊外の広大な敷地内に運営法人の医療機関を中心に複数の系列介護関連事業所が存在し、ホームとの連携によって利用者や家族ばかりでなく職員にとっても介護・福祉・医療面で安心感があります。

【やすらぎを感じる自然環境】
ホームから眺望の四季毎に変わる山々の景観、散歩を楽しむ敷地内の中庭や近接するライラックが名物の大規模公園、華やかな花々に心温まる近隣住宅のガーデニング見学など自然豊かなやすらぎを感じる環境です。

【明るく楽しい暮らしを支援】
地域や運営法人のお祭り等諸行事への参加見学、動物園・水族館・工場見学など変化に富んだ外出行事と外食、保育園児のお遊技見学、公園や神社の散歩、ユニット間の交流など明るく楽しい暮らしを支援しています。

【丁寧なケアサービス】
人材育成重視の運営法人方針でスキルアップに努めている職員は、やすらぎの環境と個人の尊厳尊重のホーム理念を理解してケア関連の詳細な記録記載と一人ひとりに合わせた親身で丁寧なケアサービスに努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にそった支援心掛けている。全スタッフが理念カードを携行し日頃のケアを振り返っている	建物内に掲示するとともに職員の理念記載カード携帯によって常にホーム理念を意識するようしています。さらに、日常業務やミーティングを通して理念を共有し、利用者へのケアサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の家のお花を見せてもらったり、近くの公園・神社に散歩に行ったり、食事をしたり、お祭りに参加したりして交流を図っている。	ホーム周辺は、系列事業所以外には一般住宅等が少ない地域ですが、お祭りなどの地域行事へ積極的に参加しています。法人主催の夏祭りへの住民参加や地域介護予防講座への協力など地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502777-00&PrefCd=01&VersionCd=022	近くの夏祭りに参加したり、町内の介護予防講座の役員を努め地域包括センターの方と話し合いを含め講座のお手づだいに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、利用者の状況やグループホームの取り組み等報告し、ご家族からも意見が聞かれ、サービス向上に努めている。	運営推進会議は行政及びホーム関係者以外に家族や町内会長も出席して2ヵ月毎定期的に開催しています。会議では報告事項とテーマ設定による講演会や災害対策等の意見交換を行い、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白石区保険福祉課に定期的に訪問したり、札幌市白石区の管理者会議にも参加し、情報交換、協力関係に取り組んでいる。	管理者は随時、行政担当窓口を訪れて書類提出以外に相談や情報交換を行っています。また、行政関連の諸会議参加や行政の講習会開催に積極的に協力して行政との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をもっている。資料をもとに日頃のケアの確認、話し合いを行っている。意識をして身体拘束をしないケアを心がけている。	身体拘束をしないケアの必要性をマニュアル整備と外部研修会参加やミーティング等による勉強会、管理者やリーダーによる日常業務を通してのアドバイスで共有し、実践に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時など通し高齢者虐待について勉強会をもち、ケアの振り返りを話し合い常に虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を利用し資料を基に学んでいる。後見人制度を利用している入居者さん方がいる(ご家族が申請、後見人になっている)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、見学・体験外泊等を通し不安、疑問等聞き十分な説明を行い契約、解約、改定等の際にも理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者、家族さんの意見を聞き会議等に家族さんに参加頂き意見の機会を設けており、運営に反映させている。	来訪家族との話し合いやホーム便り等の送付により利用者の様子を伝えています。家族からの要望等は直接の話し合い以外に3年に1回程度の家族アンケートを実施して把握し、課題解決に努めています。	家族は職員の親切な対応に感謝していますが、利用者の現状や今後の対応策について不安を感じる場合もあり舞うので、さらに、家族との連携に努めて良好なコミュニケーションを維持するよう期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等に限らず、職員の意見を聞くように心掛けている。年に数回個人面談を行い職員の意向を聞き反映に努めている。	日常業務やミーティングを通して管理者と職員は自由な意見交換をしており、年に数回の個別面談も行っています。さらに、今年の夏に職員アンケートを実施して意見や提案を把握し、運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、人事考課を行っており、その結果を昇給に反映している。正職員への登用も有り、労働条件も向上している。また、勤務状況としては、残業もほとんどなく、有給休暇も取得しやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力を踏まえ、法人内外の研修に参加を促しており、研修後の報告やサービス向上に努めている。また、新人に対して研修の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や会議などに積極的に参加し、交流する場を設けてネットワークづくりや勉強会を通して質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、体験利用された際に本人の要望、不安な事をくみ取り、安心、信頼関係を得るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や申し込み時など、話をよく聞き要望を確かめて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既往歴、生活歴、見学、体験入居の様子をもとにその時にあった対応ができるよう話し合い行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者さんに対し人生の先輩を接しているという姿勢でおり、得意な事を教えて頂き生活の中で生かしていくよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のお互いの思いを大事にとらえ家族が来られた時は日頃のケア、本人の理解に役立つ話を聞かせて頂いたり情報交換を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族との電話、外出、外泊などそれぞれ馴染みの関係を大切にしている。	家族や知人等への電話や手紙での連絡を手伝い、昔馴染みのお店や場所等への外出希望には家族に協力依頼したり、状況に応じて職員が対応しています。利用者には訪問者がある際には歓迎して居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人同士の関わりを重視しつつ、必要時は介入し仲をとりもっている。又、人間関係に配慮しその方にあった支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、ご家族のその後が不安のない様相談しやすいよう、声をかけさせて頂いている。実際に電話を頂いたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の希望、意向を言葉、表情からくみ取り支援できるよう努めている。すぐに対応できない場合もできる限り支援している。	利用者の思いや意向は、日常のケアサービスや家族からの情報で把握していますが、困難なときは表情や動作、利用者とのさりげない会話、職員間の相談等で支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートを参考にしたり、家族、本人からの話を引き出せるようスタッフ全員努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりで観察し、心身状態、有する力を把握しその時に合わせた支援となるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向やスタッフとの話し合いにより現状に合ったケアプランを作成し、モニタリングで見直ししている。変化があればその都度見直ししている。	利用者の状態を全職員がモニタリング等で確認し、ミーティングでプラン変更の有無を検討しています。プラン見直しが必要と判断した際には、本人、家族、状況に応じて主治医とも相談して最適のプラン作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で、日々の生活の様子の変化を共有している。ケアの工夫や気づき、関わりを記録に記入している。ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に耳を傾けニーズの発生があれば、管理者に相談し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の要望を引き出し、外食、散歩、買い物などに外出し心身共に充実した生活につながるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院が敷地内にある。定期受診の他、夜間、休日、緊急時に相談対応して頂いている。又、疾病に合わせ、専門病院へかかる事が出来るよう家族と相談しながら支援している	運営法人の24時間対応医療機関(内科、精神科、歯科)が隣接しており、利用者の状態に応じて月1~2回の受診支援を行っています。他のかかりつけ医への受診は家族にお願いしていますが、家族が付き添えない時は職員が対応し、結果を家族に報告しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の様子、体調を把握し看護師に伝えると同時に変化があればその都度外来に相談し適切な治療を受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、介護添書の提出、生活の様子説明している。入院中は病院職員より病状説明を聞き、退院後の生活が円滑にできるようにしている。又、日頃より提携病院の外来にかかっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化、ターミナル期、ホームで対応できる部分を説明している。実際になった時も、本人、家族、ホームの方針をすり合せ、本人が安心できるような環境を提供している。	重度化した場合の対応指針を作成して説明しています。ホームの方針として看取りを行わず、十分な連携が取れている隣接の病院等への移行について家族の了解を頂いています。職員もホームの方針を共有して医療機関と相談しながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に外部の研修に参加し都度ミーティングで確認を行っている。今後体調の急変がおこると想定されている時も、看護職員から事前に指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い(1回は夜間想定)同一敷地内の施設と合同で訓練している。地震、水害時の対応についてはミーティングで確認している。様々な非難方法を身につけられるに訓練。	夜間想定を含めて年2回の定期避難訓練をホームに隣接の共同生活援助事業所と合同で実施し、設備等の点検もしています。備蓄品類も準備していますが、不足分は隣接病院の備蓄品で対応可能です。	地域特性から住民の避難訓練参加が困難で実現していませんが、同一敷地内事業所にも参加協力をお願いして災害時の相互協力関係構築を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し接する上で態度に気をつけている。トイレや入浴時にはプライバシーに配慮した対応を行っている。	職員はミーティングで利用者の人格尊重とプライバシー確保の話し合いをしており、管理者やユニットリーダーも日常のケアサービスを通してアドバイスをし、実践しています。各種記録類もプライバシー保護に留意して適正に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を本人から直接聞き、自己決定ができるよう働きかけたり、表情から思いを汲むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりの習慣やペースを大切にし職員の都合を優先するのではなく、本人の思いを汲み、希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好み、こだわりを大切に、自ら洋服を選べるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになものになるよう、一人ひとりの好みを取り入れている。おはぎ作りなど一緒に行っている。	献立はユニット単位で職員が考えていますが、栄養バランス等は随時、管理栄養士の指導を受けています。食事は菜園の野菜も利用し、季節行事や誕生日の特別献立や外出行事の際の外出が利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については摂取量に気をつけ、バランスの取れたメニューに配慮しており、食事形態なども個別に食べやすく、いどりに配慮した食事を提供している。水分量については摂取量の確認、好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせブラシを2本用意したり、声かけ～見守りを行っている。義歯の方は		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	プライバシーに配慮し個人の排泄パターンを把握し日中は尿パットのみ、夜間のみリハビリパンツを使用したりトイレの声掛けや誘導を行っている。	自立排泄可能な利用者を除いて排泄パターンを把握し、表情等の様子や時間間隔を判断しながら声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。下着類も状況に応じて利用者に合わせて着用 に 配慮 しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の体調を管理し、毎朝乳酸菌飲料を提供している。排便の無い日は牛乳、ヨーグルト等を提供、運動(散歩)を日課にしており、楽しみながら取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の体調に合わせて、週2回行っている。入浴出来ない時は足浴や清拭で対応。普段話さない事が話題となる事があり楽しめている様子。皮膚状態の観察も合わせて行っている	利用者の希望により午前又は午後の時間帯に入浴を行い、週2回を基本としています。入浴時には利用者と職員とのコミュニケーションを大事にし、気持ち良く過ごせるよう努めています。利用者の状態によってはシャワーや清拭などで身体の清潔維持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠リズムを把握し安心する声掛けや、環境を整え気持ちよく眠れる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容、目的、副作用について理解し慎重に扱っている。体調観察を小まめに行い、状態の変化を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	袋たたみやテーブル拭き他、一人ひとりやりがいを感じて頂けるよう支援しています。外出、外食、散歩を取り入れの気分転換等取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外出、買い物の希望に添えるよう努めている。又、季節の恒例行事としてレク等を計画、実行し、家族にも協力頂き、外食、買い物に行かれています。	広い敷地内の庭と近くの神社や大型公園の散策、近隣住宅のガーデニングやお祭り等の見学を楽しみ、医療機関の売店で買い物をしています。さらに、バスレクリエーションで動物園、水族館、工場見学など外出機会を多く持つて身体機能維持に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し大事にしまっている方もおり、売店に散歩がてら行ったりと本人に合わせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、ハガキ、電話の仲介を行い安心して暮らせる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくゆったりと過ごせる様、ヒーリング効果のある曲をかけ入居者さんの好みの曲をかけ楽しんで頂いている。又、季節ごとの飾りつけも一緒に行い喜ばれている。	ホームは開設後11年を経過しましたが、内部全体に清掃が行き届き、清潔感を維持しています。明るく見通しの良い居間兼食堂はエアコン設置で適温を保ち、寛げるソファーや壁面の季節感のある飾りと写真などで親しみのある共有空間を実現しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、TVをみたり、ソファテーブルの位置に配慮し動線を遮らない様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活習慣を大切に、使い慣れた物好みの物をご家族と相談。その人らしい空間になるように支援している。	クローゼットと壁面つり下げ収納が設置されている居室は整理しやすく、壁面には家族の写真や手づくり作品を飾り、馴染みの調度品やテレビなどを好きなように配置してのんびりと暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に沿う様に居室の設定している。安全に移動できる様に動線の配慮、トイレ洗面所など場所をはっきりと明記し混乱しない様に支援している。		